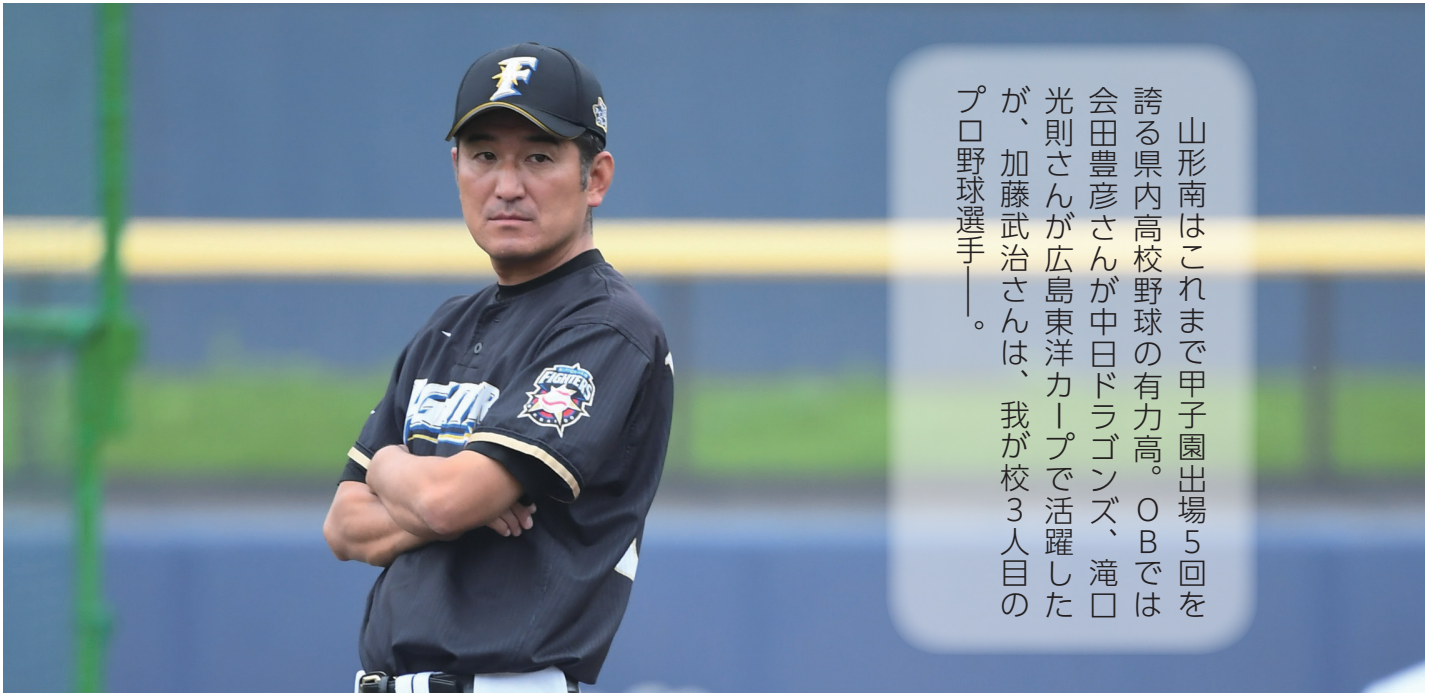


YAMAGATA-NANKOH TOKYO ALUMNI DIGEST 2021

山形南高東京同窓会報

- 峯田淳の「おらが南高のレジェンド訪問記」
- 南高生の「今」—— 南高新聞部企画
- 春の高校バレー応援
- R3キックオフミーティング
- サマーフォーラム・懇親会
- お知らせ・ご寄附のお願い
- ご寄稿
- ごあいさつ

写真：南高写真部2年 久下温人（くげはると）



©H.N.F.

山形南はこれまで甲子園出場5回を誇る県内高校野球の有力高。OBでは会田豊彦さんが中日ドラゴンズ、滝口光則さんが広島東洋カープで活躍したが、加藤武治さんは、我が校3人目のプロ野球選手——。

天童一中卒 2年の秋も

3年の夏も羽黒工業に負けた

出身は天童です。中学は天童一中。山形新聞に勤めていた父親が鶴岡に転勤になった関係で、小6の時に鶴岡の朝陽小に転校し、中3の春、天童に戻ってきました。

野球を始めたのは小3の頃。学校のチームに入って投手や内野手をやっていました。中学では自然と野球部に入った感じですね。成績は県大会に出た程度だから大したことはないです。進学したら野球を続けようと思っていたけど、受験で南高を落ちたら野球をやっていたかはわからないですね。併願で受けた日大は特進科だったので。

野球部の先輩がいた東京学芸大で

教員免許を取るつもりが…

大学は東京学芸大学に入りました。教師志望で高校の部活の指導者を目指していたので大学では野球をやるつもりはありませんでした。第一志望も学芸大じゃなかった。でも、センター試験を自己採点したら点数が足りないし、私大を受ける勉強もしてない、両親には浪人はさせないといわれていたから、国立で教員免許も取れて合格ができそうなところを探したら、学芸大の体育学科があった。体育学科にはたまたま南高の野球部の2年上のキャプテンだった先輩がいました。先輩も体育学科で野球をやっている、その流れで野球をやっ

た感いですね。野球部の練習は厳しかったですよ。辛いのは南高の場合、進学のために勉強もやらないといけないうこと。遅くまで練習をやって帰宅して、翌朝は朝一番の電車で学校に行き予習をして。その繰り返しの毎日でした。

高校時代は投手もやっていたけど、最後の背番号は「4」でした。高2の夏にエースナンバーをもらって基本[1]番でしたけど、夏の最後の1週間前に肘を痛めて投げることができなくなって。3年の時はエースがいたので4番をつけてセカンドを守り、1、2回は投げる、みたいな感じでしたね。2年の秋はベスト4、3年の夏は3回戦まで。どっちも相手は羽黒工業でした。高校の3年間、バリバリやった感はないです。

た感いですね。

社会人に引っぱり張られたのはたまたま。野球は続けていたけど、4年の春のリーグ戦が終わったら引退するつもりでしたが、創価大戦で完封しちゃって。それをノンプロの人が見ている、いいピッチングをしていると声がかかったんです。僕はサイドスローでその時は調子がよくて140キロくらい出たんです。それで練習に来てみないかと誘われたのが社会人野球の三菱ふそう川崎。僕は社会人で野球をやると箔がつくので、指導者として取ってくださるところがあるかなという乗りで入ったのですが…。

加藤コーチの写真提供は北海道日本ハムファイターズ

ノンプロの三菱ふそう川崎のエースに

三菱はきつかったですね。社会人のトップチームだから。学芸大ではとくに野球に打ち込んでいたわけではないので、最初は練習についていけなくて、そのうちクビになると思っていました。

1年目、三菱は都市対抗で優勝したけど、僕はちょっと投げたらボコボコにされ、何の戦力にもなれなかった。ただ、そうやって1年、2年とやっていくうちに体力がついたのか、ちょっとづつスピードがついて、2年目の日本選手権の時からいい場面でも投げさせてもらえるようになり、球も速くなっていったんです。社会人に入った時は130キロ前半とかだったのが140キロを超えるようになった。3年目はエースでした。

その頃から「プロ入りの可能性もあるんじゃないか」と言ってくれる人もいて、ドラフトを意識するようになりました。そして社会人3年目の02年のドラフトで横浜に指名してもらいました(4巡目)。



©H.N.F.

プロ2年目に亡くなった父親は三菱に入社した時は喜んでいただけ、ドラフトにかかった時は、安定した会社員生活を捨てて、1年契約の厳しいプロの世界に入るのを反対していたみたいです。

元々プロに行こうなんて気はさらさらなかったんですけどね。それでもプロになれたのは珍しいかもしれません。子供の頃からプロに行きたいという思いでやっている人がほとんどですから。僕がうまく流れに乗れたのは運がよかったのと巡り合わせもあったと思います。

番長・三浦大輔のリリーフで投げた

横浜の三浦大輔監督は僕の5つ上です。三浦監督は見た目と違って優しい人ですよ。後輩思いだし。食事にもよく連れて行ってくれました。ベンチではしょっちゅう一緒でした。三浦さんが先発して僕がリリーフとか。

僕らの時の横浜は強なくて毎年、最下位争いしていたので、しんどかった思い出も多いですね。でも、結構、使ってもらって勝ち星もあげることができた。巨人と対戦した時は緊張したけど、面白かったですね。みんなすごいバッターだから。僕が横浜に入ったのはちょうど松井秀喜さんがメジャーに行くのと入れ替わりでした。

大学の先輩！ 栗山監督の北海道日本ハムファイターズでは大谷翔平や斎藤佑樹と

北海道日本ハムファイターズにはトレードで移りました。そのおかげで今もこうして仕事できています。入った時は梨田監督でした。11年に退団、12年から栗山監督に代わり、ファーム投手コーチになりました。栗山監督は学芸大出身です。学芸大出身の監督、コーチの組み合わせは珍しいかもしれません。

この前引退した斎藤佑樹が入って来た時はまだ僕は現役でした。僕にとって現役最後のルーキーが斎藤です。彼のことはなんで打たれないのかなと不思議に思っていました(笑い)。テクニクはあるけど、速いわけじゃないし、すごい変化球を持っているわけじゃない、ピンポイントでコントロールできるボールがあるわけでもないから。要所要所でいい

ボールは投げていましたけど。

大谷翔平が入って来たのは13年のコーチ2年目の時です。キャンプで2カ月ファームにいて開幕では1軍、モノが違いました。球は速いし、バッティングもすごかった。優等生で放っておいても練習するし、あまり手がかからない選手でした。

今、こうして北海道日本ハムファイターズのファームコーチをやっているのはやはり運と巡り合わせ、それから出会いです。南高に入ったのがここまでつながっていると思います。



©H.N.F.



©H.N.F.

加藤武治さん(南高46回卒)

通算：30勝28敗9セーブ

横浜：03～09年

日本ハム：10～12年

日ハム(コーチ)：12～14年

国士舘大コーチ：15～17年

日ハム(コーチ)：18年～

※11月栗山監督が退任、
新庄剛志 新監督のもと、
加藤さんは一軍投手コーチに。

みねた・あつし 59年生まれ。28回卒。夕刊紙「日刊ゲンダイ」元芸能文化編集部部長。「完全保存版 THE 芸能スキャンダル」(徳間書店)、編著「おふくろメシ」(T.W.J.)、著書「競輪全43場 旅打ちグルメ放浪記」(徳間書店)、編集・プロデュースに「板東英二の生前葬」(双葉社)、「由紀さおり 明日へのスカット」(集英社)。新刊「全裸監督が答える 不道德で世界一まっとうな人生相談」(村西とおる著、発売：講談社)を企画・プロデュース。(株)デヌエット代表



第58回南高祭



—— 令和南合戦南ポコ ——

今年も8月26日(前夜祭)から8月29日の4日間にかけて南高祭が開催された。今年度も昨年同様に一般招待が中止され、様々な感染対策が徹底された中での開催となった。「南流～令和南合戦南ポコ～」のスローガンのもと、前夜祭、1日目の体育祭、2日目の文化祭、そして3日目にクラスマッチと後夜祭が行われた。

短い期間での準備となったが、コロナ禍でも行えるよう考えられた多くのオリジナリティあふれる企画により、大きな盛り上がりを見せ、充実した3日間となった。

コロナ対策も万全

1日目 体育祭

当日は晴天で行われた。1～2年生がクラス別に縦割りでわかれて連合となり、様々な競技で競った。綱引き、学年別障害物リレー、騎馬戦そして最後にクラス全員リレーが行われた。どの試合もたくさんの方の声援が飛び交い、白熱した戦いとなった。

今回の体育祭は感染防止対策として、基本マスク着用や密を避けるといったことが行われ、例年よりも盛り上がり欠ける体育祭になってしまうのではないかと危惧されていたが、どの連合も優勝を目指して力の限り戦い、南高生らしい、熱く燃えた1日となった。



組頭の宣誓



死闘の騎馬戦

2日目 文化祭

文化祭は講堂での開催となり、密を避けるために交互に2つの学年が講堂へ入り、残りの学年が各教室で中継を観るという形で行われた。

今年の文化祭は吹奏楽部の演奏から始まり、映演部、各クラスから選出された生徒が出し物を披露する「N1グランプリ」、音楽部のライブとウォーターボーイズのパフォーマンスが披露された。そして、最後に生徒会制作のビデオ鑑賞があり、体育祭とはまた違った楽しさのある魅力溢れた1日となった。

コロナ対策のために移動が多かったが、運営陣のしっかりした指示のおかげでスムーズに、かつ楽しく文化祭を終えることが出来た。



クラス出し物



盛り上がる会場の様子



南高ウォーターボーイズ

3日目 連合クラスマッチ

当初の予定では一般招待が行われる予定だったが、今年度もコロナウイルス感染症流行のため中止となり、それに代わり連合クラスマッチが行われた。

連合クラスマッチは体育祭同様に縦割りで行われ、1～3年生が混合チームを組み、連合ごとに得点を競い合った。

好天のなか、サッカー、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、ドッジボール、卓球、バドミントン、アームレスリング、eスポーツの計10種目が行われた。

特に今回注目を集めたeスポーツでは「大乱闘スマッシュブラザーズ」が使用され、運動競技にも負けない盛り上がりを見せた。

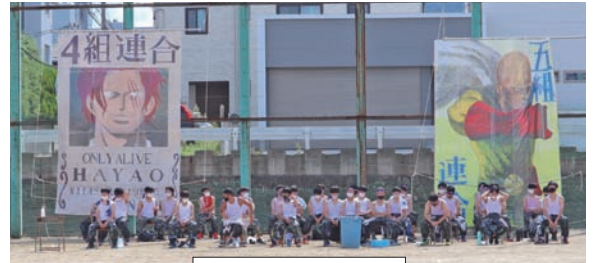
サッカー



バスケットボール



eスポーツの戦いの様子



連合の看板を背に

後夜祭

南高祭の最後の企画となった後夜祭では鉄人レース、歌のコンテストである「Nステ」、各種競技の結果発表、花火の打ち上げ、応援団の引継ぎが行われた。前夜祭から始まって4日間にわたって開催された南高祭は、今年も大盛況のもと幕を閉じた。



後夜祭歌



最後の勇姿

東京同窓会報に寄せて

今年度も南高新聞部に同窓会報の記事を書く機会を与えていただき、ありがとうございました。未だにコロナが終息せず、今年の南高祭も一般招待やその他一部の競技、イベントの実施が断念されてしまい悔しい限りです。しかし、十分な対策の中開催された南高祭では日ごろの制限から少し解放されて、楽しい時間を過ごすことができました。

現在の南高の状況をこのページを通して知っていただければ幸いです。OBの方々、これからも南高生を見守り、応援していただければ心強いです。



3年生集合写真

春高バレー 2021 (第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会)

令和3年1月5日から東京千駄ヶ谷、東京体育館にて開催
2年連続出場となった全日本大会。コロナ禍のため無観客での試合となった。
一回戦はシード、二回戦は1月6日(水)、古豪石川県立工業高校と対戦。
結果は南高生らしく粘りの闘いを展開するも、①20対25、②26対28で敗退。
山形六中時代に全国優勝の経験のある身長191センチのエース菅原君を中心
にして、更なる南高バレーボール部の活躍を期待するとともに、東京同窓会
としても応援に駆け付けたい。(写真は「(南高ブログ)バレーボール部」より)



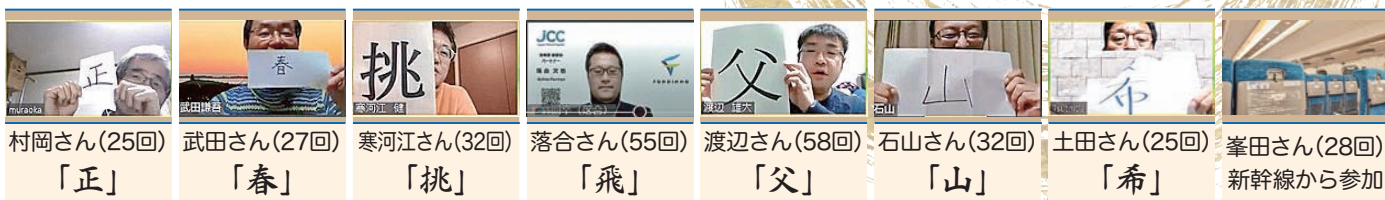
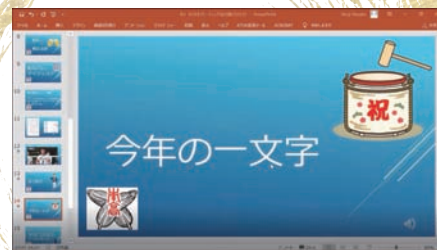
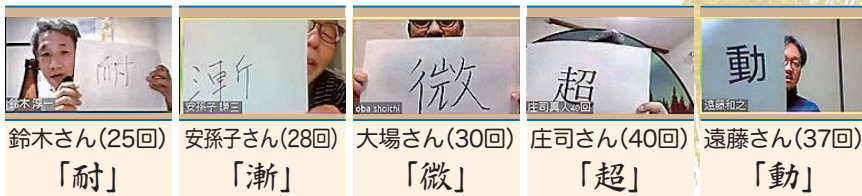
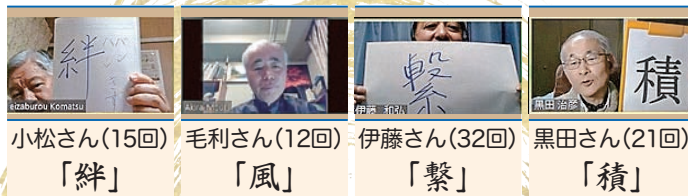
R3 キックオフミーティング (新年会)

令和3年1月22日(金) 20:00 ~ 21:15 オンラインでの開催

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 黙祷
4. 校歌斉唱
5. 乾杯
6. 春高バレーダイジェスト
7. 自己紹介・今年の一文字決意
8. 応援歌「空はコバルト」
9. 閉会の辞・花笠三本締め



17名の皆さんにご参加いただき短時間でしたが、
コロナに負けずに楽しく一年のスタートを切りました。



何でもお気軽にご相談ください

黒田治彦税理士事務所

税理士・認定経営革新等支援機関・登録政治資金監査人

黒田治彦 (南高 21 回卒)
Kuroda Haruhiko

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-14-2 雄邦ビル1階
Phone 03-3556-8068 Fax 03-5213-4667



E-mail:kuroda_zeirishi@ybb.ne.jp
Mobile:090-4964-7616

サマーフォーラム2021(暑気払い)

2021年6月18日(金) 20:00～21:30



オンライン開催で、20名の皆さんが参加していただきました。
Zoom開催のため、首都圏の他、山形や大阪からも参加いただき、楽しく交流のひと時を過ごしました。

参加者を募るにあたりメール等を有効に活用し、欠席の方からも事前にメッセージを頂戴し情報を共有することができました。なかなかいい感じで盛り上がりました。

参加者20名

- | | | |
|-----------|------------|--------------|
| ①12回 毛利さん | ⑧25回 村岡さん | ⑮38回 菊地(真)さん |
| ②15回 小松さん | ⑨25回 土田さん | ⑯38回 菊地(正)さん |
| ③15回 尾添さん | ⑩27回 武田さん | ⑰40回 庄司さん |
| ④17回 菊地さん | ⑪28回 峯田さん | ⑱53回 佐藤さん |
| ⑤21回 黒田さん | ⑫28回 安孫子さん | ⑲54回 高橋さん |
| ⑥21回 片桐さん | ⑬32回 寒河江さん | ⑳55回 落合さん |
| ⑦25回 鈴木さん | ⑭32回 伊藤さん | |

令和3年度山形南高東京同窓会オンライン懇親会

2021年11月20日(土) 17:00～19:00

当初総会開催を予定しておりましたが、コロナ禍のため中止となりましたので、同日オンライン (Zoom) での懇親会開催を企画いたしました。

お忙しい中14名の皆様にご出席いただき、楽しく語り合うことができました。税理士と弁護士の出席もあり、身近な税務相談や法律相談により大いに盛り上がりました。

来年6月の総会で多くの皆さまと再会を祝し合いたいと存じます。



出席者 14名

- | | | | | |
|---------------|---------------|----------------|----------------|---------------|
| ①山口さん(南高7回卒) | ④黒田さん(南高21回卒) | ⑦土田副会長(南高25回卒) | ⑩大場さん(南高30回卒) | ⑬庄司さん(南高40回卒) |
| ②毛利顧問(南高12回卒) | ⑤鈴木さん(南高25回卒) | ⑧武田さん(南高27回卒) | ⑪伊藤副会長(南高32回卒) | ⑭菊地さん(南高38回卒) |
| ③小松会長(南高15回卒) | ⑥村岡さん(南高25回卒) | ⑨峯田さん(南高28回卒) | ⑫遠藤さん(南高37回卒) | |

令和4年度 山形南高東京同窓会総会

日時：令和4年6月11日(土)午後

場所：アルカディア市ヶ谷 (私学会館)

東京都千代田区九段北4-2-25

電話：03-3261-9921

※コロナ禍のため、詳細は4月にご案内いたします。
安全面を第一に考慮し開催を決定してまいります。
是非出席のご予定をお願いいたします。

篤志家の ご寄附のお願い

東京同窓会の活動費のためのご寄附を募っております。
是非、郵便局の次の口座まで
ご送金くださいますよう
よろしくお願い申し上げます。

口座名：山形南高東京同窓会東京支部
口座記号番号：00110-7-581420

令和3年度

弁護士 菊地真治

(南高38回卒 野球部)

東京弁護士会
菊地真治法律事務所

東京都港区西新橋2丁目2番5号竹内ビル2階
電話：03-6205-7557 FAX：03-6205-7558

定年後、写真を楽しむ

尾添 仁(南高15回卒・大阪府在住)

貴会主催のオンラインで結ぶ「サマーフォーラム2021」に大阪の地から参加させて頂きました。フォーラムでの近況報告の中で私は「定年退職後、写真を楽しんでいる」ことを報告しました。フォーラムから数か月が過ぎて会より連絡があり、「会報」への写真の掲載と写真にまつわるエピソードを掲載して欲しいとの依頼があり寄稿することとなりました。

私と写真 雑感

私が定年退職後に余生を楽しむための趣味のひとつとして始めたのが「写真の作品づくり」です。退職して自由な時間をもて余すことだけは避けようと、沢山の選択肢がある中からこれを選びました。写真は“出会いと感動”とも言われ、ひたすら楽しみを広げ、高めることができます。写真はフィールドワークが必要であり歩くことが健康を増進させてくれます。余生を生きる老人の身としては、写真はテーマを決め作品をつくるためカメラの技術的なことも含めかなり頭を使います。それが脳の活性化となり、認知症などの予防にもつながるのではと勝手に思っています。また写真は沢山の出会いと感動から心豊かに生きる力をも享受できます。

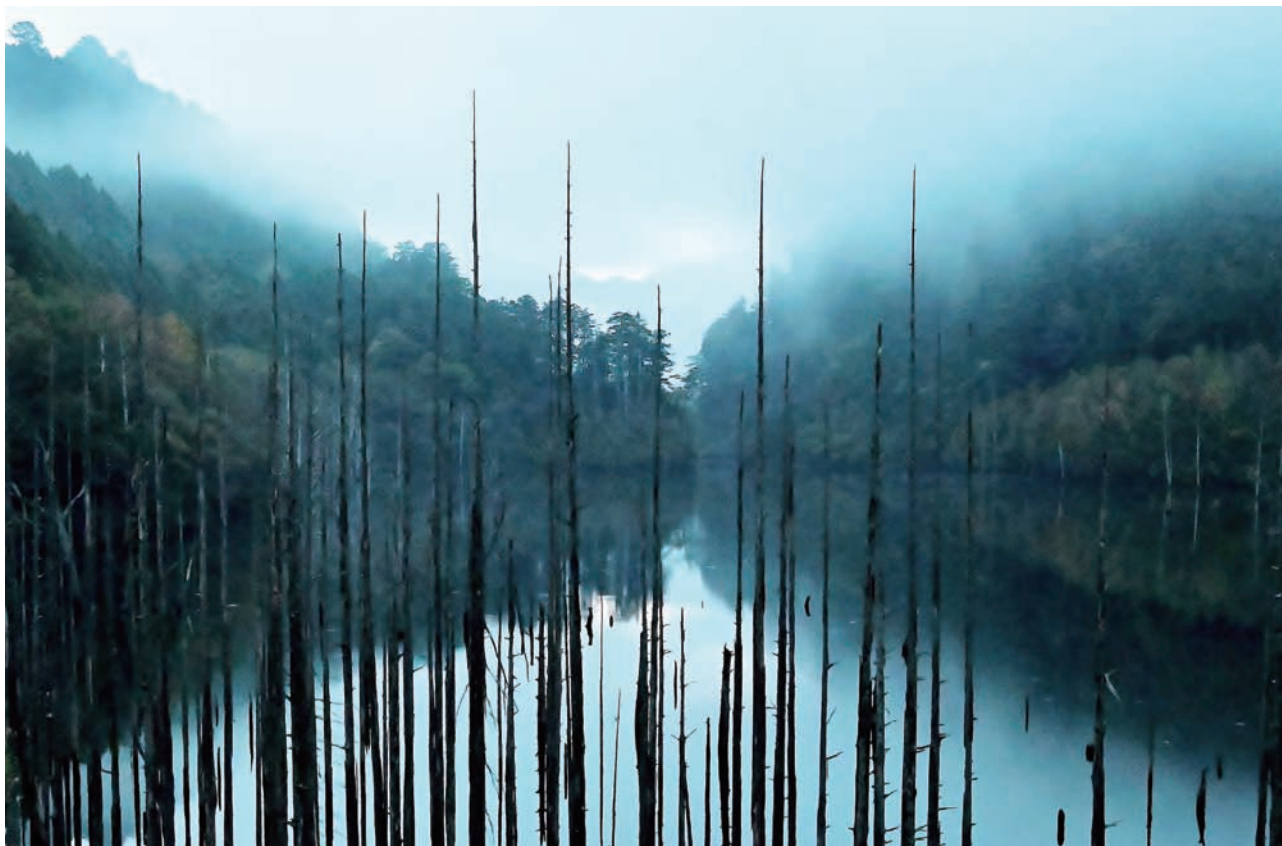
こんなことを思いながら、感じながらもう10年にもなりました。

写真は奥深く中々究めにくいのですが、今にしてやっとその一端が見えてきたように思います。最近では写真のコンテストに入賞したり、写真の専門雑誌にも掲載されるようになりました。自分の作品が評価をえて認められる、こんな嬉しいことはありません。そして今後生きていく上での大いなる励みにもなります。

私はもうすぐ後期高齢者(75才)になります。いよいよ人生の最終盤に入ります。写真の作品作りはまだまだ続きます。最後の挑戦です。

私の作品

写真ですが、3枚掲載します。この3枚は過去3年間に私の年賀状に掲載したものです。いずれもタイトル、撮影場所を添えておきます。それぞれ、私の思いがたっぷり詰まった作品です。また、何等かのコンテストで入賞した作品でもあります。



「朝ぼらけ」(長野県 王滝村 自然湖)



「錦秋」(奈良県 御所市 金剛山山頂 ひさご池)



「光芒」(大阪府 千早赤阪村 金剛山本道2合目付近)

歌と共に生きる

橋本篤彦(南高25回卒)

東京藝術大学声楽科に一浪で合格し、上京。あれからざっと45年ほど経ちました。

大学から現在までの、思い出に残る事柄を列記します。



南高生時代

3年時、大学記念行事で藝大合唱団としてカラヤン指揮の第九に参加。オケは、ベルリンフィル。

晩年のカラヤンは、リハーサルでは背中が曲がりヨボヨボと指揮台上がり、鉄格子のような囲いにつかまりつつの指揮。が、本番では颯爽と現れ、背筋をピンと伸ばしカリスマのタクトを振りました。

大学時代の最高の体験でした。

在学当時はよく音楽の仕事(アルバイト)が掲示され、希望者はそこに参加できました。

友達は、「ドリフターズの8時だよ全員集合の最後の方にあった聖歌隊の最後列」に毎週のように参加。時期は違いますが、私は高峰三枝子全国縦断リサイタルや西城秀樹さん(クリスマスコンサート)のバックコーラスに参加しました。お二人とも気さくで素敵な方でした。

他に、現代作曲家のヤニス・クセナキスの作曲した初演ものにも参加しました。特筆すべきは、その音楽の和音構成。通常、#(シャープ→縦と横の線が2本ずつ交差)がつくと、ある音を半音上げますね。彼の作品では、このシャープの記号に似ていて「縦と横の線が3本ずつ交差」が出てきました。つまり、「ある音を4分の3だけ高く」という記号であり、同じ音で#とこの記号が同時にハモるように作曲されたもの。ハモるというより猛烈な不協和音のぶつかり合いでした。

卒業後は、どこにも所属せずひたすら個人で声楽を磨きながら歌の個人指導を25年ほど。

その間の43歳時、仲間たちと一週間ほどイタリアへ声楽のレッスンを受けに行きました。



大学コーラス時代

30代の難病にて腹部に障害を持つ身になり、体重20キロ減。妻の献身的支えにより回復した、5年後の事でした。

毎日レッスンを受け、明日帰国という「前日のレッスン」のことです。

身体が限界を超え倒れそうになった時、それまで柔らかな微笑みを浮かべていたマエストラ(女性の先生)が突然に真顔になり、静かにこう言ったのです。

「日本からはるばるイタリアまで何しに来たの? 明日それで帰る気なの?」と。

身体が一瞬で凍り付き、が、次に猛烈なエネルギーが湧き出て信じられないような声を出し、最後には最大級に褒められて終了。

そばで友人がその瞬間を写真に撮っていましたが、後にも先にも自分のあんな表情は観たことがありません。

音楽の奥深さ、永遠の厳しさ、そして最高の喜びを味わったのです。

長年の個人指導終了後は、生きるために働きつつ音楽への時間は「自分のみ」へ費やす日々です。

今後残された時間は世界各国の素晴らしい歌曲を原語で演奏し、その録音を後世に残すのが最大の目的になっています。

世界中の歌曲を聴きまくり、その中で自分の心の琴線に触れた譜面をコツコツ集めてきました。

収録機材の購入とその使い方の学びで2年ほど費やし、約10ヶ国語の言語の譜面とにらめっこしながら毎月の伴奏合わせと収録作業。さらにその音声編集と、難題が山積みです。あまりに困難すぎますが、山南時代にハッキリ悟った「自分の進むべき道」を今後も可能な限り追求し続けてまいります。

演奏音声は、譜面などを扱うサイトに11月半ばに商品としてアップ致しました。

MySongs(世界各国の歌曲):

<https://utamaru.shop-pro.jp/?tid=6&mode=f268>

誰も通ったことのない道なき道を歩み続け、歌と共に生きて参ります。山南の卒業生に、たまにはこんな変わり者もいてもいいですよ。

JICA ボランティアに参加して

武田謙吾(南高27回卒)

2015年2月末、冬の日本から一路熱帯のミャンマーに。ヤンゴン国際空港に降り立った時あまりの蒸し暑さに思わず「暑い!」と叫んでしまいました。以前ビルマと呼ばれたこの国は、人口は日本の半分、面積は2倍、「ビルマの竖琴」の国として知っている方も多いと思います。ミャンマー人の多くは信仰に篤い仏教徒で、小さい頃から善行や悪行について教えられているせいか比較的治安が良い国です。ある日本人がタクシーに2度も財布を忘れたのですが2回とも1円も欠けず戻ってきたとのこと、ちゃんと戻るの日本とミャンマーだけだと言っていたそうです。バスで子供を抱いた人が乗ってくると必ず席を譲ります。私も大きなバナナの房を抱えて立っていると、座っている人から持ってあげますよと声を掛けられたことが何度もありました。人見知りで真面目なところも日本人とよく似ており、他の東南アジアの国々とはちょっと違い外国に来た感じがせず、昭和30年代の日本にタイムスリップしたような印象です。



ヤンゴンの中心街の様子です。中央奥に写っている金色の仏塔がスレーパゴダでヤンゴンの象徴の一つです。

あって参加できずにいたのですが、50代になって「人生に悔いは残すまい」と決意。その後経済的にも目処が立ったので家族とも相談して55歳で会社を早期退職し協力隊に応募。念願叶ったその最初の赴任先がミャンマーのヤンゴン・コンピュータ大学でした。

大学はヤンゴン中心から北に25kmほど離れた郊外にあり、ミャンマーに26校ほどあるコンピュータ関係の大学のなかで最も大きな大学です。生徒数約4,000人、教職員約250人のコンピュータと情報技術専門の4年制大学で大学院も併設されています。学長をはじめ教職員と生徒の殆どが女性で、私がシニア世代だったせいか細かい心遣いにいつも感謝しておりました。大学がヤンゴン市街から離れているため、ほとんどの教員と学生は片道約2時間かけてバスで通ってきます。手に手にお弁当箱を持った制服姿を見ると、高校生時代遠い道のり左沢線で山形市内まで通ったことや、朝早くからお弁当を作ってくれた母親のことが思い出されました。

私は小さい頃からJICAの青年海外協力隊に参加したいと思っていたのですが、当時まだボランティア休暇制度はなく、参加するには職を辞するしかありませんでした。帰国後の職探しの不安も

国の方針としてコンピュータエンジニアの育成が打ち出され、大学の授業に組込システムの講座を開設することになったのですが、先生方の実務経験が少ないためJICAに支援依頼があり、ボランティアとして教員や学生を指導することになった次第です。組込システムとは冷蔵庫やエアコンなどの家電製品や車に使用されているマイコンのことです。秋葉原で購入したマイコンボードを使って実際にプログラムを作りながら、基本的な動作やプログラミング方法について教えていました。

私の住まいは大学構内にある職員住宅でしたが、大学の周囲には何も無く買い物は3km離れた村の市場に行くしかありません。飲料水だけは20Lボトルで購入

しましたがそれ以外は全て井戸水です。食器を洗うと流しに泥が溜まり、シャワーからはミミズが出てきたりして。夏場は日に10回以上停電しその度に授業は中断、当時は苦勞しましたが今となっては楽しい思い出です。

その後もボランティアとして再度派遣されたり、教え子の結婚式に招待されたりして毎年ミャンマーを訪れています。2015年の総選挙で大きく民主化に舵が切れ、これから豊かになれるぞと誰もが希望を抱いていたその時にコロナと軍のクーデターに見舞われてしまいました。残念なことにお世話になった学長もその犠牲になってしまいました。今は同僚や教え子とSNSで連絡を取り合っているだけですが一日も早く再会できる日が来るよう願っています。



全国に26校あるコンピュータ大学の准教授、講師を集めて特別講義を行った時の写真です。コンピュータ大学は全国の主要都市にあり、教員のほとんどが女性です。



ヤンゴンの式場で行われた教え子の結婚式の写真です。家内と一緒に主賓として招待されました。身にまとっているのはミャンマーの民族衣装のロンジー(巻きスカート)で裸足にサンダルが正装です。

古人の辞世の句に想う

毛利 昭(南高12回卒)

「風さそう 花よりもなほ 我はまた 春の名残を いかにとやせむ」ご存知「忠臣蔵」の切っ掛けを作った播州赤穂藩の藩主浅野内匠頭の辞世の句である。死の間際によくぞこれ程の詩が詠めると感嘆しきりである。切腹を仰せつかり、その準備の間に手早く読まなければならない。私なんぞは気が動転して詩歌を読むどころでは無い事は確かである。

内匠頭の場合、松の廊下で吉良上野介に刃傷に至り、即刻切腹を申し渡されたとある。その切腹の場が、私の住んでいる建物から僅かな距離にある為、他人事では無い気がしている。その地に近く「切腹最中」を名物とする和菓子屋「新生堂」が店を構えており、よくお世話になっている。何か、不祥事があった場合この菓子を持参し「切腹してお詫び仕る」の意を告げれば、相手方からも笑って許してもらえる功德もあった。



浅野内匠頭終焉の地碑

この歳になると故人の辞世の句が気になってくる。自分もこの様な句が作られる訳ではないが、これまでの句の傾向を探ってみるのも面白い。良く知られた句としては吉田松陰の「身はたとえ 武蔵の野辺に 朽ちぬとも 留め置かまし 大和魂」がある。萩の城下に松下村塾を開き、高杉晋作、伊藤博文、久坂玄馬、山県有朋などの門下生に持った松陰だが、

29歳の時に安政の大獄で罪に問われ、江戸の伝馬町牢屋敷で処刑された立志伝中の人であった。改めて、この句を読めば死罪を覚悟し予め認めておいたものと推察できる。

己の死期を予測し、認めたであろう句には豊臣秀吉の「露と落ち 露と消えにし 我が身かな 浪花の事も 夢のまた夢」や、三島由紀夫の「益荒男が たばさむ太刀の 鏗鳴りに 幾とせ耐えて 今日初霜」がある。秀吉の「夢のまた夢」は何となく無常を感じるが、三島の句は死してなお、己を誇示する力強さがある。

一方で「死なんぞは糞くらえ」とばかりに面白おかしく詠った句も少なくない。弥次さん喜多さんを配した「東海道中膝栗毛」などを世に出し、当代一の流行作家だった十返舎一九などは「この世をば どりゃお暇せん香の 煙と共に灰さようなら」などと洒落とユーモアの籠った句を残している。辞世の句と言えるかどうかは論議の分かれる所ではあるが、盗賊石川五右衛門の「石川や 浜の真砂は尽きるとも 世に盗人の種は尽きまじ」も面白く読ませる句である。

また、淡々としすぎており辞世の句と言えるかは議論を呼びそうな句に「願はくは 花の下にて 春死なむ そのきさ

らぎの 望月のころ」と言う句がある。ご存知西行法師の句であるが、何となく分かりそうな気がする。更には、辞世の句と言えるかと言われれば、普通の俳句かなと思われる句に「散る桜 残る桜も 散る桜」「うらを見せ おもてを見せて 散るもみじ」などの句を持つ良寛和尚が居る。歌人は幸せである。生前の句が辞世の句に取り上げられても、誰も文句は言わないからである。その典型が「余は石見人森林太郎として死せんと欲す」と詠んだ森鷗外である。

中には恨みつらみを書き込んだと思われる句もある。幕末に人斬りで蔵と恐れられ、志が不明な志士と言われた岡田以蔵は慶応元年(1865)5月に打ち首獄門にて亡くなっている。享年28まだまだ若き志士である。その折の辞世の句が「君が為め 尽くす心は 水の泡 消えにし後は 澄み渡る空」尽くしたと言う君は誰かは不明だが、最後は潔い句ではある。更に不気味なのが源為義の句である。余りお馴染みではない名であるが、彼は源頼朝・義経の祖父に当たる方で、保元の乱で敗れ、実子であった源義朝に斬られている。その折に呼んだと言われる句が「父を斬る子 子に斬られる父 斬るも斬らるるも宿執の排き事 恥ずべし恥ずべし 恨むべし恨むべし」文中の宿執は(しゅくしゅうと読む)は積年の恨みとか執念の事。この句を読むと、平安の世から戦国までの棟梁の在り方が見えてくる。怖いですね。

最後に女の方も辞世の句を読んでいますね。クレオパトラや楊貴妃と並び、世界の三大美人と称され歌人でもあった小野小町の辞世の句が「あはれなりわが身の果てや浅緑 つひには野辺の霞と思へば」である。良く分からないが、私は、年老いた身の儂さを讀んだものと推察している。次に春日局であります。波乱万丈の一生を送り64歳で亡くなったと言われております。彼女の句が「西に入る月を誘いて法を得て 今日ぞ火宅をのがれけるかな」である。生涯の生き様を火宅としたのか、権力の最中にありながら心休まる所では無かったと言うのか不明だが、何となく気になる句である。彼女の父親が仕えていた明智光秀の句が「心しらぬ人は何とも言はばいへ 身をも惜しまじ名をも惜しまじ」と開き直りますね。私の心境も同じようなものです。



和菓子屋「新生堂」

吉野禮三氏、山田 勲氏 両名を偲んで 小松栄三郎



吉野禮三氏（南高3回）のご逝去の報に接し、驚きを禁じ得ません。コロナ禍のためお会いすることがなく、メールのやりとりもしばらくなかったのですが、まさか逝去されていたとは。

吉野氏は平成14～15年度に常任幹事になられ、16～19年度に副会長を歴任。文字通り再開されたばかりの山南東京同窓会の牽引役を引き受けられた方です。若手の我々とも積極的に意見交換をしてくださり、その歯に衣着せぬ発言に襟を正された方々も多いのではないのでしょうか。

郷土研究部に属しておられた吉野氏は、生涯「郷研の士」であられました。最上郡船形町の最上川段丘から出土した西の前遺跡の女性の土偶に魅せられ、その美しい像の写真を「会報」第6号に掲載してくださり、私たちにその感動を何度も話されたのでした。

心よりお悔やみを申し上げます。（令和2年7月9日ご逝去）



山田 勲氏（南高8回）は平成16～19年度に常任幹事になられ、20～23年度に副会長を務められました。

東京同窓会が再出発してから8年間、この最も重要な時期に、会の発展のために尽力してくださいました。同期の方々が、健康やその他の理由で総会に出席されなくなっても、山田氏は総会に出席し続け、若い私たちを鼓舞し続けてくださいました。言葉数の多い先輩ではありませんでしたが、とても誠実かつ優しい方で、東京同窓会をこよなく愛してくださっていました。目立たない方ではありませんでしたが、いつも総会の真ん中にでんと構えていてくださったように思います。私たちの相談にもいつも快く耳を傾けてくださいました。決してご自分の考えを押しつけようとはなさらず、私たちの考えを尊重してくださいました。

心よりお悔やみを申し上げます。（令和3年3月26日ご逝去）

同窓生のご家族よりお手紙を頂戴いたしました。御了承をいただきましたので、紹介させていただきます。（抜粋）

山形南高東京同窓会事務局御中

拝啓 突然お手紙を差し上げる失礼をお許し下さい。私は鈴木健一（昭和5年7月29日生）の長女、鈴木裕子と申します。このたびは父への賀状を有難うございました。

父鈴木健一は令和2年（2020年）12月23日、横浜旭中央総合病院にて誤嚥性肺炎のため亡くなりました。90歳でした。疫病蔓延の折、12月31日に家族葬により父を送りました。

父と同年代のOBはかなり少なくなっていると存じますが、父の事をご存知の方がいらっしゃったらと思い、簡単なながら父の生い立ちを下に書きます。父の人生と交差した瞬間、すれ違った瞬間のことをふと思い出して頂ければ本人も喜ぶと思います。

昭和5年（1930年）、父は山形県山形市にて鈴木直吉、タミエの長男として出生、母方伯母の夫で当時北京神社の官司をしていた梅本俊次氏の誘いにより、旧満州国鞍山市（現遼寧省鞍山市）に昭和製鋼（現鞍山製鉄）技術者家族として移住しました。満洲の大地は広大で、莫大な投資により日本国内より先進的で充実していたそうです。一般家庭での水洗トイレも標準設備でした。

終戦の混乱による措置で、終戦時の中学三年生を山形で再履修、引揚者は成績ではなく日本到着順で高校に振り分けられたとのことでした。山形二高（現山形南高）では経済困窮の中勉学に勤しみ、特に数学と英語の勉強は将来の仕事につながる大切な糧となりました。身一つで引き揚げてきた人々にとっては、体得した知識、勉学は誰にも奪えない掛けがえのない財産でありました。

東北大学機械工学科に進み、航空学を学び飛行機的设计士になりたいという子供の頃からの夢はGHQ指令による日本の航空技術研究禁止、風洞実験施設破壊により叶いませんでしたが、卒業後は山形県電気局でダムの発電施設建設に携わり、その頃仕事の先輩の紹介で、後に母となる小菌井陽子（昭和33年ミス山形代表）と知り合いました。その後、昭和35年、30歳で日産自動車に就職し上京、31歳で母と結婚しました。

東南アジア技術研修を経て、昭和40年35歳から6年間は米国日産に勤務し、米国におけるサービス基盤の確立に貢献しました。米国勤務中40歳で娘二人を授かりました。

78歳までは海外旅行もしていましたが、83歳を過ぎた頃から足腰が弱り、母の体調不良もあり、デイサービスやショートステイを利用していました。

コロナウイルス感染予防措置で面会を果たせぬまま、2020年9月16日に母を肺癌で失ったことは、大病を何度も乗り越えてきた父にとって、かねてからの体力低下と相まって心に痛手であったと思われれます。12月14日に肺炎により入院、23日午前2時32分に力尽きました。コロナ後に会うことを約束していたので大変残念です。

戦争を生き抜き、特技を生かして日本の花形産業の自動車業界において戦後の日本復興に実直に尽くし家族を支えた父を、日本の宝の一人であったと誇りに思います。

皆様のご健康、ご多幸を心よりお祈りいたします。 敬具

2021年2月6日 鈴木裕子（鈴木健一長女）

TORENDOU



都恋堂



女子部JAPAN

こんにちは。南高30回卒の大場勝一と申します。弊社・都恋堂（とれんどう）は、東京都新宿区にある広告制作会社です。Web や紙など媒体は問わず、記事1本、チラシ1枚から、会社案内1冊丸ごと、企業メディアの立ち上げ・運用といったものまで手掛けています。また、自社事業である女子部JAPANでは全国に会員2万6千人を抱え、企業様には市場調査などの場としてご活用いただいております。ご興味をお持ちいただけましたら、お気軽にご連絡ください。

株式会社 都恋堂 〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-11-1 ホームスト新宿ビル 7F
TEL : 03-5369-3851 FAX : 03-5369-3852 Web : www.torendou.co.jp

母校創立80周年に

おもとう



山形南高等学校
校長 石澤 惣栄

東京同窓会の皆様には、日ごろより本校教育に對しまして、多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。また、貴同窓会の皆様や、遠隔の地からの諸先輩方による暖かい激励や情報を頂きましたこと、はじめに御礼申し上げます。

令和2年度は新型コロナウイルスに始まり、学校も社会全体も不安な日々を過ごしました。東京同窓会の皆様方がお住いのところでも大変な思いだったことと拝察いたします。

さて、令和3年に、本校創立80周年を迎え、10月5日には記念式典を挙行いたしました。昨年度来、同窓会の皆様方から様々なご提案を頂き、ICT環境の整備をメインとした記念事業を企画していただきました。2、3年教室には高性能の電子黒板の設置、並びに学習用としてiPad80台等のご寄贈を賜りました。これにより、平

常授業にも活用し、休校時のオンライン授業にも対応が可能となりました。幸いにも現時点では休校措置をとるまでに至っておりませんので、平時の活用として教員も授業を組み立てております。この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

令和3年生徒の活動状況としては、運動部1団体4個人がインターハイ出場を果たし、文化部3部が全国高校総合文化祭に出場を果たしました。南高祭も1964年東京オリンピック直前に第1回が行われた時から今回で58回を迎えました。その折に定められた「南高祭3原則」(・南高生自らの手で行うこと・南高生全員が企画し、参加すること・南高生全員が団結し、プライドを示すこと)を立派に引き継ぎ、コロナ禍の中ではありますが、生徒の工夫と情熱の下、無事開催することが出来てほっとしております。もちろん感染症対策は厳重にし、これによる感染拡大はありませんでした。同年10月以降も生徒の活躍の場を控え、そのパフォーマンスに期待しているところです。

令和元年度末より、グローバル人材の育成を目指して修学旅行を海外に、探究活動(Society 5.0やAI、SDGsの理解など)として校外外へ、と様々な変化に対応すべく舵を切ったばかり

りなのですが、外へは出られませんでした。終息を迎えたら再出発です。

最後に、令和3年度も東京同窓会総会を中止せざるを得ない旨のご連絡を頂きました。令和

4年の6月に実施予定のことと伺いました。山南東京同窓会の皆様が健康で笑顔で再会されることを願っております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



山形新聞全15段・2頁見開きで掲載の「山形南高創立80周年記念広告」です。(2021年10月5日)



山形南高（山形二中、二高） 東京同窓会報

第十八号
令和3年12月23日発行
千代田区平河町2-6-3
山形県東京事務所
山南東京同窓会事務局
小松 栄三郎
編集人代表 土田 和男



六月の「総会」、 新たな出発



山形南高東京同窓会
会長 小松 栄三郎

我が南高は令和三年に八十周年を迎えました。心よりお祝い申し上げます。

一日一日の熱心な教育活動が八〇年間積み上げられ、有為な人材を社会に輩出し続けて来られたことを誇りに思います。今後もしっかり発展されることを願っております。

◎総会を六月に

令和二年と三年は、新型コロナウイルスのため、総会を中止せざるを得ませんでした。令和四年度は何としてでも総会再開に漕ぎつきたいと願っていました。六月に開催できる運びとなりました。

これまで秋に開催していた総会を会計年度に出来るだけ合わせ、六月頃に開催したいと願っていましたが、六月の中旬の土曜日に会場を確保できたことは本当

にさいわいなことでした。

当初は六月の土曜日、日曜日は予約でいっぱいでしたので、平日でもやむを得ないと十一月の常任幹事会で決定しました。しかし、平日の予約も難しい状況でした。コロナ禍の影響で六月頃に団体予約が殺到していたからです。しかし、全く偶然に六月の土曜日が空いていて予約できたのです。ある常任幹事は「奇跡ですね」と言いました。私もそう思いました。

◎新しい出発

六月の総会は初めてです。総会の案内、出席者の確認、総会資料の作成、会計の取り扱いなど、業務は同じでも準備する時期が違いため、うっかりミスが出る可能性があります。心して準備に取り掛かりたいと思います。

さて、総会が六月に実施されることには幾つかの意義を見出すことができると思います。

①会計年度が四月に近づいたこと ②当該年度の活動をほぼ四月から一年単位で考えることができること ③学校や社会の活動と時間が合っていること等です。時間的なことを考えると、これらのことは確かに合理的だと思います。

でも私は「同窓会への参加をもっと呼び掛けること」を提唱いたします。第一に、卒業生たちに呼び掛けた。毎年卒業式前に「会報」を贈呈していま

す。今後「会報」と一緒に招待状も併せて送りたいと願っています。

第二に、大学生に呼び掛けた。昨年の六月、私は私が住んでいる千葉県成田市に隣接する酒々井町にある順大を訪れ、野球部の監督（四年生、山南出身）に会うことが出来ました。四年生で監督をやっているのが驚いたのですが、とても爽やかな青年でした。六月十八日（金）に予定していた「山南東京同窓会フォーラム2021」を案内してきました。驚いたのは、他に三人の山南出身の野球部員がいたことです。残念ながら、コロナ禍のため再度訪問することはできませんでしたが、結果的にはオンラインに参加して貰えませんでした。継続的に案内をしたいと思っています。

このように山南出身で活躍している大學生のスポーツマンは結構いますので、その人たちに同窓会に参加して貰って、互いに交流の場を持つて戴ければと願っています。

第三に、Eメールやスマホでの案内に力を入れる。HPも利用する。

第四に、メールやスマホの苦手な人たちへのアプローチを多様化する。

総会が六月に実施されることになったことを契機として、一層同窓会への参加を呼び掛けていただければ嬉しく思います。とにかく呼び掛けましょう！

コバルトの空

◆令和3年、コロナ禍の重い空気の中でスタートとなったが、1月6日の春高バレーでの南高生の活躍が熱い青春時代を思い出させてくれた。続いて1月22日「R3キックオフミーティング」(新年会)がオンラインで開催され、17名が集い、更なる飛躍の一年を決意し合った。◆常任幹事会は毎月オンライン開催により、一致団結して東京同窓会のあり方を協議。WEBやSNSの効果的な活用により同窓の絆をどう深めていけるのか、伊藤副会長を中心に具体的に活動に移した。今号に寄稿していただいた方々はこの活動から接点が生まれた皆さんです。6月18日「サマーフォーラム2021」(暑気払い)も20名が参加してオンラインで開催。中止となった総会開催予定日の11月20日にはオンラインでの懇親会を開催。今年にはオンラインのメリットを享受し、山形、大阪、東京・首都圏の同窓生が参加、距離を感じることなく、南高生としてのDNAを確かめ合った。◆レジェンド訪問記は、北海道日本ハムファイターズに加藤武治コーチ(南高46回)です。コロナ禍、球団のご協力により実現しました。新庄監督のもと更なる活躍を応援してまいります。◆あこがれの南高生は、コロナ禍を何するものぞ！と、創立80周年記念を生き活きと勝ち超えている。今年も新聞部の皆さんに「南高生の今」を紹介いただきました。南高生は時代を超えて我々同窓生の期待通りの南高生でした。◆今後も多くの寄稿を募集し、活躍する同窓生を応援していきたい。フー！ フレー！ 南高！

土田和男 (南高25回卒)